

令和6年度 大分大学教育学部附属特別支援学校 学校運営計画

I 前提

(1)教育学部の附属学校《設置目的》

(2)学校教育法に定められた特別支援学校(準ずる教育、障がいによる学習上・生活上の困難の改善)

本校の使命

①日々の実践

知的に障がいのある児童生徒を対象に教育を行い、個々の能力を伸ばし、自立への意欲を育て社会生活の適応を高める。

②人材育成

大学教員や学生の教育研究に協力するとともに、教育実習の指導にあたる。

③研究の推進・地域への発信

特別支援教育について、理論的、実証的研究を推進するとともに、地域の障がいのある幼児児童生徒やその保護者及び幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校への支援の充実に努める。

めざす子ども像(より具体的な姿)

学校教育目標

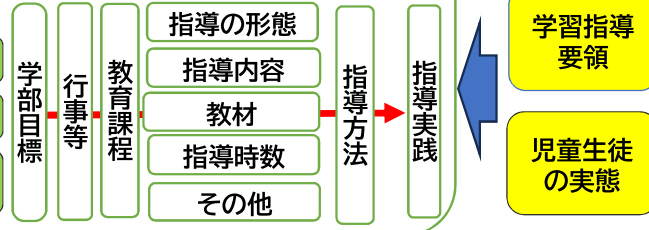
豊かに人や社会と交わり、自ら進んで取り組み、自己表現できる子どもの育成

明るく元気なやさしい子

人や社会と豊かに交われる子

自分から進んで取り組み

自己表現できる子



運営のポイント

令和6年度 重点的取組

情報発信 I-③

教育委員会との連携、教育相談、HPの充実
地域事業への参加(作業製品、販路拡大)

進路指導の充実

一人一人の適性に合った進路指導
小・中・高一貫した進路指導

組織的な学校・学部運営 II-(5)

- 目的を踏まえた会議の設定(役割、活用、実施時期の検討)
- 効率的な決裁、報・連・相ルートの確立

働き方改革 II-(4)

業務のフラット化、スケジュール管理の徹底

授業改善 I-①③

研究活動 一人一実践、実習指導、Unote活用
個別の指導計画評価様式の変更 等

適切な教育課程編成 I-①②③ II-(1)(2)※その他

研究活動との一体化 教育課程委員会
教科部会、PDCAサイクル

安全で、安心な学校づくり II-(3)※その他

- 危機管理意識、対応スキルの向上
- 危機管理体制の見直し
- 多様な課題に応えるための、大学資源の活用を含めた、内部・外部連携

II 国内の動向

- インクルーシブ教育システム
ア. 共に学ぶシステムづくり **イ. 連続性のある学びの場**
- 学習指導要領の改訂
ア. 知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性
イ. 自立活動の充実 ウ. 各教科等の目標・内容 エ. カリキュラムマネジメント
- 防災・感染症対策(地震、コロナ)(4)働き方改革(労働基準法)(5)学校マネジメント
※その他
・奈良教育大学の未履修問題 ・南石垣支援学校給食事故

重点的取組	達成指標	取組の具体
○「目的を持つ子ども」を育てる授業作りの更なる深化・定着	○U-note、実践事例の作成率100%(校長・教頭・教務主任・学部主事を除く)	○第十次研究の研究結果の活用 ○個別の指導計画の充実
○自らの可能性を發揮する小・中・高等部一貫した教育課程の編成	○教育課程に位置づける指導の形態の「基本的な考え方」に、各教科の目標・内容の位置づけが明確に示されている。 ※各教科等を合わせた指導の改善(4形態)	○組織的に改善を図るための、教育課程に係る学校組織の見直し ○教育課程編成スケジュールの見直し ○「教務」と「研究」が一体化した取組の推進
○安心・安全な学校づくりの推進	○非常時・災害時を想定したシミュレーション訓練5回以上実施	○実効性のある訓練による「危機管理意識」や「対応スキル」の向上及び危機管理マニュアルの見直し・改善
		・U-noteを活用した一人一実践及び、実践事例の作成 ・実践事例のホームページでの公開 ・「公開研究会」「特別支援教育担当教員実地研修等、教育委員会主催の各種研修」での情報発信 ・授業実践のPDCAを整理する「個別の指導計画」の様式の改善 ・個別の指導計画の評価・改善箇所を管理職が中心にチェック ・教育課程検討委員会の設置と定期的・計画的運用 ・「各指導形態部会」「各教科部会」の設置・継続的活用 ・PDCAが円滑に機能する教育課程編成スケジュール及び検討内容の提示・運用 ・各指導の形態の基本的な考え方(目標・取り上げる内容、教材、指導時数、年間の配列、他学部との連携、教科間の連携等)の改善 ・各学部での緊急時等におけるシミュレーション訓練の実施と個別対応マニュアルの見直し ・改善した「危機管理マニュアル」「実施計画」に基づいた学校泊を想定した訓練、保護者と共同の訓練の実施と検証